

てよいことを記載した。また、本名ではなく「呼び名・あだ名」を記入してもらい、居住地の特性（市街、郊外、島等）を知るために設けた「住んでいる町の名前」も、番地まで記入しなくてよい旨を伝えた。同居人（主に家族）の構成を知るために設けた「一緒に住んでいる人」という項目に対しては、「家族」とだけ記した対象者が多かったため、今後は「一緒に住んでいる人の内わけ」などといったように改めるべきであろう。

● 倫理的配慮

研究対象者に対する倫理的配慮として最重要視したのは、個人を特定できるような形で対象者に関する情報が公開されることはないことを保証することであった。この点を支柱として、FGIの冒頭で以下の点を口頭確認した。

- ▶ 本 FGI の目的と概略
- ▶ 分析のためにテープ録音並びに観察記録・速記録をとらせてもらうこと
- ▶ 司会者だけでなく、在室の研究班員全員が対象者のプライバシーを漏洩しないこと
- ▶ 録音記録は研究班員のみが利用し、記述記録（テープ起こしを含む）は個人を特定できないような形で研究発表・報告などに使わせてもらうこと
- ▶ 対象者が FGI 中に話したことを非対象者である第 3 者に話さないこと（ピアのプライバシーの確保）

これら以外にも、今後は FGI を途中で拒否したりテーマによっては発言を拒否したりする権利や、拒否しても不利益を蒙らない保証などを盛り込むべきなのかもしれない¹²。

● 記録

本 FGI では、記録としてオーディオ・テープによる録音記録、速記者による速記録、観察者による観察記録がある。これらの記録については既に述べたとおりなので、ここではテープ起こしを外注した場合の留意点について記す。テープ起こしの外注にはメリットとデメリットがある。メリットは、テープ起こしにとられる莫大な時間を省けることと、内容分析に際して必ずしも重要ではない言葉の反復・「あー、う～ん」などといった言葉を適度に省いて整理してくれることである。（因みに、2 時間の FGI のテープ起こしは 40 字×40 行で 28-43 ページに及んだ）但し、このメリットはテープライターの仕事の質にかかっている。正確でないテープ起こしや、言葉の省きすぎ・整理のしすぎは、逆に重要な情報を落としてしまったり歪曲してしまったりしかねない。この場合はテープ起こしを外注することがデメリットになってしまう。また、テープライターの仕事が遅ければ自分でやった方が時間の短縮になる。いずれにしても外注した場合は、分析者自身が必ず何度もテープを聞いてテープ起こしをナマの語りと突き合わせ、その正確さと充分さを確認する必要がある。

● アイスブレイキング

アイスブレイキングとは、対象者たちを打ち解けてリラックスした状態にするためのゲームのようなものである。FGI においては、グループダイナミズムを活性化するようなことを行なうのが望ましいであろう。本 FGI では、「好きなタイプの女の子」について 1 人の対象者に尋ね、答え終わったらその対象者に次の回答者を指定してもらい、というものや、若い女性の写真が多く載っている雑誌のページを対象者全員が見て自分の好みの女性を念頭におき、次に右隣に座っている参加者の好みの女性を選択して頭に入れた上で、一斉に「この女性だ」と思う人を指差してもらい、ということを行なった。後者のアイスブ

レイキングは、お互いをよく知っているはずの対象者同士でも、かなり意外な結果が出たりするので大いに場が盛り上がり、打ち解けてリラックスした状態作りや、グループダイナミズムの活性化につながった模様である。

● 対象者の目的意識

FGI 対象者に目的意識をもってもらうには、対象者の発言・議論がどのように研究の役に立つのか、そしてどのようなテーマについてどの程度話す必要があるのかを、なるべく具体的に伝えねばならない。これらのようなことが、対象者のやる気につながるようである¹³。本研究においては、対象者の語りが今後のエイズ予防に直接的に反映される可能性を示唆し、そのために実施した介入の評価、性に関する情報・コミュニケーション、コンドーム使用の3つについて、自分の経験、意見、聞いた話などを具体的に話し合ってもらうよう依頼した。1つのテーマから次のテーマへ移行する際には、必ず司会者が要約・整理を行ない、それが本当に対象者たちの考えと合致しているかどうかを確認した¹⁴。これは、対象者にとっては発言内容を自分たちで制御しているという意識につながるであろう。

対象者の目的意識を活性化させるいま1つの工夫は、共同作業に携わってもらうことである。本 FGI で試みたのは、対象者の1人に白紙のカードを何枚か配り、対象者全員で考えられるだけの避妊法と STD 予防方法を書き出してもらい、それをお互いに議論しながらより「安全」な順序に並べてもらう、といったものであった。この共同作業は、対象者の避妊や STD 予防に関する認識を垣間見ることができるだけでなく、共同作業であるがゆえに活発な議論（グループダイナミズム）が起こりやすい、という利点がある。

また、本 FGI の対象者のような学生である場合には、謝礼が出ることを事前に告げ、「割のいいアルバイトとして、バイト料に見合う仕事をしてください」と念を押すことでも目的意識をある程度もたせうる。

● 事後アンケート（文末参照）

事後アンケートは、対象者が参加した FGI に対する評価やコメントを得ることを目的として、FGI 直後に実施した。内容は次ページのとおりである。結果について若干の考察を加えれば、1名を除いて全員が「きんちょうしそう」「1人だと答えにくいことがあるから」などといった理由から、個人面接法よりも FGI を好んだ。しかし、この1名は「友達に言っていない事もある」と答えており、FGI と個人面接法では得られるデータの質が違ってくる可能性がうかがえる。（調査の場所と異性の在室については先述のとおり）

● 実施時間

FGI の実施時間については、研究の目的やデザインによって変わってくるが、通常1-2時間ほどだと言われている¹⁵。本 FGI では、各グループ2時間行なった。ただし、グループダイナミズムが生まれない状況で2時間持続させると沈黙が多くなり、得られる情報の質と量が低下しがちである。但し、沈黙するのは失敗であるとは言い切れない。というのも、しばらくの沈黙の間に司会者がさらなる質問に気づき、そこから再び発言が続くこともあるからである。完全に固定した時間帯を設けるのではなく、グループに応じてある程度実施時間を調整すべきなのかもしれない。

3. 分析方法

分析の密度や深度といったものは、最終的な報告形体によって変わってくると思われる。

対象者の語りを単純にまとめたものから、さまざまな角度から対象者の発言内容、非言語的表現、議論の流れ、さらには他の量的・質的研究の成果を取り入れて、注目しているテーマの社会的背景などを探るものまで、多種多様であろう。本研究では、対象者のコンドーム使用・不使用の要因まで切り込もうという目的で、次のような分析の手順をとった。

● 分析手順

① データに習熟する・全体像を再構成する

作業	目的	補足
テープ起こし（外注）	インタビュー内容のテキスト化	後にチェック・修正必要
観察記録を通読	参加者の非言語的行為を再構成	
テープ起こしの通読	テキストによる全体像の再構成	
テープを通して聴く	音声による全体像の再構成	
テープを聴きながら通読	テキスト／音声双方による全体像の再構成、加筆修正	

② 調査主題を確認（修正）する

作業	目的	補足
調査目的・主題に基づいてテープ起こしの該当部分を抽出	調査目的・主題を確認	観察記録・その他の対象者関連資料等を参照
テープ起こしの該当部分を再度テープを聴きながらチェック・加筆修正	テープ起こしの正確さを向上、該当部分のイメージの再構成	

③ コード化・分析者トライアングレーション

作業	目的	補足
生データを短い要約的な文に置き換え＝解釈	生データの分類可能化	必要に応じてテープの聴き直し
共同研究者等とコードについて討議	コード（生データの解釈）の共通点・相違点を確認	討議を踏まえてコードを修正・決定

④ カテゴリー化・分析者トライアングレーション

作業	目的	補足
コードの分類＝カテゴリー化 カテゴリーの決定	コードを調査主題に沿ったかたちで相関性を見ながら分類	観察記録・その他の対象者関連資料等を参照
共同研究者等とカテゴリーとそれらの関連性について討議	調査目的・焦点、報告形式などとの適合性を確認	討議を踏まえてカテゴリーを修正・決定

⑤ 全体像の確認から最終チェックをする

作業	目的	補足
録音テープ、テープ起こし、観察記録等を再度通して参照	最終的なカテゴリーとカテゴリー間関係の確認	最終形体は主分析者の権限・責任に委ねられる

具体的な分析のプロセスにおいて役立ったのは、安梅勅江が『ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法』の中で提唱している「モッテユキカタ」というガイドである。モ＝目的、ツテ＝提供対象、ユ＝行く末（分析の到達点・深度）、キ＝強調点、カ＝活用法、タ＝他の可能性、の6点に留意しながら分析を進めてゆく¹⁶。（コード化、カテゴリー化、ならびにそれらに不可欠なトライアングレーションについては、時間の制約上ここでは取り上げず、別の機会に詳述したい¹⁷。）

結果

1. 対象者による介入の評価

ここでは、対象者による介入授業の直接的な評価を、コンドーム使用法の実演、授業内容および配布したパンフレット、中絶・クラミジアについてのビデオ、そして授業そのものの対象者に対する影響に注目して見てゆく。なお、ここでは対象者の語りをある程度整理しまとめることにとどめ、カテゴリーを抽出していない。というのも、ここでの目的は抽象化された概念を読者の記憶にとどめてもらうことよりも、対象者が具体的にどのような感想を持ったり反応を示したりしたのかを見ていただきたいからである。また、対象者の発言はコード化されたものであり、実際の発言を研究者の言葉で置き換えたものである。

A. 授業に対する感想

① コンドーム使用法の実演

モデレーター登場時の着衣（術衣）や、リコーダーやペニス模型を使ってのコンドーム装着に興味を示していた。ワンタッチ・コンドームの装着を何回も繰り返したこと、その際の装着の速さ、コンドームの種類の豊富さ、匂いつきコンドームの匂いをかいだことなどに対する印象が強かった。

- コンドームの説明はインパクトあった。みんなコンドームの周りによっていた（高1）
- 匂いのあるコンドームの匂いをかいだことがおもしろかった（高2）
- ワンタッチ・コンドームの装着の速さに驚いた（高2）
- コンドームに種類があるのを知らなかった（高3）

② 授業内容・パンフについて

自分の高校のセックス経験率・コンドーム使用率を聞いて、妥当なところだという認識であり、驚きはなかった。だいたいの人がパンフを見ていたが、パートナーと一緒に読む（見せる）ことはなく、一人で読んでいた。「オーラルセックスで性病がうつること」、「外だしの危険性」、「性病の症状が出ないこと」、「自分の市の中絶の増加」の情報により、性病や妊娠をより身近なものとして感じるようになっていた。

- （自分の）高校の高2の性経験率が30%と聞いて、妥当な線だと思った（高2）
- （コンドーム常用者は20%について）それくらいだ。つけないだろう（高1）
- （授業終わってから）パンフは読んだ。一人で読んだ（高1）
- 性病は口から性器にも性器から口にもうつるということは知らなかった（高1）
- 自分もクラミジアが感染しているかもしれない（高1）
- 2人に1人は性病の症状が出ないことは、知らなかった（高2）
- （この地区）で中絶と性病が急増中という情報はためになると思った（高2）
- 自分にもありうると思った（高1）

③ ビデオについて

ビデオの内容では、中絶のビデオに対する印象が特に強く、中絶で何が行われるかが具体的に認知され、相手の痛みを共感する気持ちが生じていた。しかし、高2の反応は極めて少なかった(6人中5人はほとんど覚えていない・印象に残らなかったというコメント。故意にコメントを避けているのか、照れがあるのか、授業の時に寝ていたのかは不明である。)ただし、覚えていない・印象に残らなかったと言いながら、内容を詳しく覚えているところもあり、集まったメンバーの力関係により素直な意見が出にくかった可能性がある。

- この前のビデオ結構印象強い。痛そうだった。そういう思いさせたくない(高1)
- 今までは薬か注射で中絶できると思っていた(高1)
- ビデオは見てなかった。まったく覚えていない(高2)
- クラミジアのビデオを見た。女性にモザイクがかかっていた(高2)
- ビデオの中で、女性が医者と話していた(高2)

④ 授業の影響

高1：授業の内容、特に中絶のビデオにより、気持ちの変化はもたらされたが、行動変容(コンドーム使用)にまではいたらなかった。その理由として、セックスに対する欲求が強く我慢できない、コンドーム購入費用がもったいない、一度コンドームなしを経験すると使わなくなるなどがあげられた。

- 中絶のところを見たらだいぶ変わった。でも実際セックスしたらコンドームつけない
- (コンドームをつけないのは)しばらくセックスしてなかった時にがまんできないとか、コンドームを買うお金がもったいないから
- 一回コンドームなしでセックスしたら、ずっと使わなくなる

高2：授業を受けて大きな変化はなかった(6人中5人)というコメント。わずかな知識増加、自分の行動の再確認・変容の意図の上昇が報告された。

- あの授業を聞いてはじめて知ったことは特にない
- ずっとコンドーム使っているので、授業は確認だった
- ちょっと知識が増えたぐらいだ
- コンドームをつけるよう気をつけないといけないと改めて思っただけ

高3：今まで知らなかった知識が得られ、すでにしていたことに対しては再認識された。妊娠に気をつけるようになり、コンドーム使用がより確実なものとなっていた。

- コンドーム無しが怖くなった(コンドーム不定期使用者)
- 妊娠を気をつけるようになった
- 新しい情報収集と旧情報の再確認

B. 次回の授業で教えてほしいこと

ここでは、対象者が本 FGI の最中に、次回の授業で教えてほしいこととして提示したものを列挙する。

① 妊娠関係の質問

高1：コンドーム以外の避妊法の内容とその有効性(危険日、排卵日、安全日、基礎体温などオギノ式に関する質問、膈外射精、射精後のシャワーによる膈内洗浄、ティッシュによるふき取り、女性の腹を叩く、生理時のセックス、ピル〔飲み方、費用、作用機序、効果、高校生の使用状況〕)。精子/卵子の寿命(避妊の際の参考として)、

妊娠の判別方法。

高2:避妊方法(コンドーム以外:基礎体温・ピルなど:注但しピルに関してはピルを使っていたらコンドームつけないでいいかどうかを確認する質問であるので、ピルの説明の際には、コンドーム使用の重要性を強調しないとコンドーム離れが起こる危険性が大きい)、中絶費用。

② 性病関係の質問

高1:どんなことをしたら性病になるのか。(不潔な手による接触、オーラルセックスによる感染、多数の相手とのセックス、セックスしないと性病にはかからないのか。生まれつき性病の人はいるのか。)(注:相手の口から自分の性器への感染を、ある人の口への感染がその人自身の性器へと移行すると誤解している場合あり)。男女別の性病の症状(クラミジア・淋病の症状)性病感染者の外見上の特徴(感染者の見分け方)性病の治療はどのように行うのか。

高2:性病の治療費

③ コンドーム関係の質問

高1:コンドームにはサイズがあるのか?自分のサイズはどうやって見分けるのか?コンドームは薄かったら破けやすいのか?(薄くて丈夫なコンドームはあるのか?)使用期限の意味は何か?コンドームを最初からつけるとはどういうことか?

高2:コンドームの安全性(どのコンドームが破れにくいのか。100均コンドームは安全か)

2. コンドーム使用・不使用の背景

これ以後は、コンドーム使用・不使用に照準して、対象者の行為の「なぜ・どのように」に迫ってゆく。抽出されたカテゴリーは、学術的な知見のストックよりも、実践的な介入をデザインする際に、すぐに思い出して留意できるような知識であることを目指している。よって標語的な形式をとっている。なお、対象者の発言中()内のものは、引用部分以外でなされた発言を補足しているものであり、研究者の勝手な解釈ではない。また、1人の発言であっても、そのグループの総意をあらわしているものであったり、逆に多数による同一テーマに対する言及があっても、それがグループ規範によるプレッシャーから来るもので、必ずしも個々の正確な共通意識の反映であったりするとも言えるわけではない。さらに、言及者数に関係なく、ある発言が研究目的と密接な関連性——本研究で言えば、次期介入のための改善点やヒントとの関連性——をもっている場合、それは重要な対象項目となる。

A. コンドームの入手

対象者がコンドームをどこでどのようにして入手している・しやすいだろうと思っているのかと、どんなコンドームを入手したいと考えているのか、の2点に注目する。

◆ 買うならコンビニ・薬局・自販機

コンドームを購入する場所は、コンビニ、薬局(ディスカウント系を含む)、自動販売機が好まれ、優先順位もおよそこの順序に従っているが決定的な差はない。コンビニ支持の根拠としては、コンドーム以外の品物がある、コンビニは薬局よりも行きやすい、自販機よりもコンドームの質が高そう、などが挙げられた。対象者の中でも薬局を支持したケースでは、地元の薬局の店員と信頼関係を築いているものや、ディスカウント系薬局でとにかく安くコンドームを購入したいといったものがあった。(コンドームの安さについては

後述) また、コンドームの自動販売機も利用するようだが、コンビニや薬局にあるコンドームと比べて、古そうな自販機のコンドームはあやしい・危なそうという意見も聞かれた。

司会1： 薬局よりもコンビニ？ それはなんで？

高1K： 薬局のほうが入りにくい。

高1G： コンビニだったらほかのものも買えるじゃん。

高3H： やっぱり(薬局の)おばちゃんと話ができとるけん。…知っとる人で、(親などに)内緒にしとってよ、という感じで。…前は自販機なんかで買ったけど…自販機がなくなった(のでやむにやまれず薬局にした)。

司会1： 自販機、コンビニ、薬局で、全部近くにあって値段も安くてだったらどれ使う？

高2S： コンビにか薬局。なんか安全ばい。…ぼろい自販機とか、あやしいじゃん。

◆ もらうなら友達・彼女・家族

対象者がコンドームをもらう相手は同性の友人が多いが、相手(彼女)からもらうもしくは相手が持っていることもあるという。家族からコンドームをもらう・あげるケースでは、親からという対象者も1名いたが、兄弟姉妹と性に関する話をする過程において、あげたりもらったりすることがあるという対象者が数名見られた。一方、他人からコンドームをもらうことについては警戒感も見られ、相手によってはコンドームの質が心配、何か畏がありそうといった懸念が聞かれた。

司会2： K君ももらうの？

高1K： もらうし、あげた。(P君を見て)前にあげたよね？

高1P： もらった(笑い)。

高1G： 買いよるん、K？

高1K： うん、女にもらった。

高3N： お姉ちゃんとかはたまにくれたりするときもある。

司会1： ほんとう？ どういう話で？

高3N： そのへん(性について)の話しよって、これがいいんだよとかって。

高2A： …おまえ(友達)が持っとるのはいらん、って感じ。

高2T： 細工されとったら困るし。

高2A： 針とかでね。

◆ 安い、薄い、臭わない、素早いコンドーム

対象者が入手と使用に際して望ましいと考えるコンドームは、価格がある程度安く、厚さは薄い丈夫で、もたつかずに素早く装着でき、且つゴム臭くないものであるという。コンドームの値段はひたすら安ければよいのではなく、逆に安すぎるものや100円ショップにあるものは品質が悪いというイメージがあるらしく敬遠される(全グループで見られた)。薄さについては、薄いのを希望しながらも、その強度に対する懸念が見られるため、同時に丈夫なコンドームを求める声がある。コンドームの臭いについては、「ゴム臭くない」

コンドームがよいという主張が度々なされた。また、介入時に配布されたワンタッチ・コンドームが、その名の通り素早く装着できること、使いやすいことに対して、対象者から高い評価が得られた。

高3I： 自分で買うときはあんまり気にしないですけど、安いのを買ってます。

司会1： 3箱1,000円とかでもOK？

高3I： はい。まあそれぐらいかな。それ以下でもべつに気にしないみたい。安く手に入ればいいかなど。

高3N： それは危ないよ（笑い）。

高1G： …安くて丈夫ならいい。（誰か「不安」）100均とかはね。

高1P： 100均は危ない。せめて200円（笑い）。

高1P： うすうす（コンドーム）じゃろ。

高1G： 破れそうじゃん。

高1Y： メントールがいい

高1P： うすうすメントール。

高1G： いい香りのがいい。

高1P： ああ、ゴムくさくないの。

高3N： ワンタッチのはびっくりしちゃった。ああ、ああいうふうにやるんかって。

高3H： あれ、でもやりやすいよ。

高20： 速かったねえ。（誰か「速かった」）シューンてねえ。

B. コンドーム使用の目的

介入者が、セイファー・セックスの観点からコンドーム使用の目的を一方的に規定するのではなく、対象者自身がコンドームをどのような目的で使っているのか、に注目する。

◆ 避妊・中出し・早漏対策

対象集団にとって、やはりコンドームは「望まない妊娠」を防止する避妊法として認識されている。ただ、避妊もさることながら、妊娠を気にせず気持ちよく膣内射精をする目的で使うという主張もある対象者によってされた。また、膣性交における早漏対策という意見も、参加者間に少なからぬ同意を得ていた。

高3H： 一応僕は責任とれるようになるまでは絶対そのつもり（コンドーム常用）
でいまはいて、実際しているけん、たぶんこのまま、もうちょっとで仕事につくけど、その仕事がちゃんと一人前にできるようになるまでは、たぶんそのまま付けたほうがいいでしょう。

司会1：（コンドーム）なしでやったことはないの？

高2T： 1回あるよ。こわいじゃん。

司会1： なにがこわい？

高2T： 子供ができそうになったら。

司会1：（コンドーム）使ってる？

高1G： たまにね。中出ししたいときに使う。…中出ししたいじゃん、気持ちよく。

司会1： (コンドーム)使ったほうが長持ちするという意見もありますけど。

(「ああ、ああ」ってみんな納得してる)

高3N： タクシーの運転手さんに言われた(笑い)。

司会2： この間授業のときも、そんなこと答えた人いたもんね。

高3N： 「おまえら早いんじゃないだろうが」とか言われた(笑い)。「2つぐらい付けたらいいんとかがうか」って(笑い)。

◆ 性病予防は目的外

対象集団の間に、STDの予防を目的としてコンドームを使っている、という意識が見られなかった。むしろ、自分がSTDに罹ることはなく、さらにSTD患者を判別することができる(実際にセックスしてみることによって!?)という認識が表明され、コンドームをSTD予防と結びつける傾向は見られなかった。

高2S： べつにそういうふうになる(STDに感染する)理由がない。

司会2： じゃあ、どういうふうだったらクラミジアになるんだろう。

高2S： 病原菌の持ち主とやったり。

司会2： じゃあ、どういう子が病原菌持っていると思う?

高2S： そりゃやってみんと(笑い)。

司会2： やって見たらわかる?

高2S： わかる。

司会1： なんかサインがあるわけ。

高2C： うん。なんかね、周りに白いのがついておるとね。それで先輩、1個上の人がやるときに、そのあと数日後に病気がわかって、で、やっぱりあの白いのはあれだったんじゃないなことで、やるんじゃないなことがあったんで…。

C. コンドーム使用・不使用の違いに対する認識

対象者が、コンドームを使っている時と使っていない時との違いをどのように認識しているのか、その認識の幅に注目する。

◆ 断然ナマ

コンドームを使ったセックスでは、装着の面倒くささやその作業における間の悪さがあるだけでなく、違和感があって気持ちよくないために、ナマの方が気持ちいいという発言が、とくに経験者数が多く、コンドーム常用率が低いと目される対象者群(G3の半数とG4の大多数)から多く聞かれた。

高2C： つけたらじゃま。つけたらなんかいやだ。違和感がある。

司会1： つけないほうがスムーズということ?

高2S： 面倒くさいじゃない。

司会1： つけるのが?

高2S： つけるタイミングが。

司会1： しらけちゃうとか、そういうこと?

高2S： それもあるし、一人でもじもじつけよったら変じゃん（笑い）。

高1P： 1回ナマでやったら、ずっとナマになってしまうよね。

司会1：（コンドーム使用と不使用）違いある？

高1P： あるね。

◆ ナマでもつけても変わらない

一方、性交経験者数が比較的少なく、コンドーム常用率が高いと目される対象者群（G1）からは、コンドームなしでもありでも慣れると変わらない、コンドームが気になるのは最初だけ、という主張があった。

高3I： 最初のうちだけやね、気になるの。初めて付けずにやったときと、初めて付けたときの、その感覚は違うかもしれんけど、付けてやって、それが慣れだしたら、もうあまり変わらんと思ってきた。

高3H： いまおれ、付けてるときのほうがあたりまえの状態やけん…

高3N： 変わらんと思うよ。

D. 避妊方法・STD 予防方法に対する認識

対象者がコンドーム以外の避妊法・STD 予防方法について、どの程度・どのような効果があると考えているのかを見るために、「対象者の目的意識」の項で説明したゲームで、彼ら自身が行なった避妊方法・STD 予防方法の効果に対するランクづけに注目する。このゲームは G3・G4 に対してのみ行なわれたため、G1・G2 については、考察において補足的な議論をするにとどめる。

◆ 避妊法：ゴムなしなら外出し、安全日

対象者が、相談しながら最終的に自分たちで選んだ効果的な避妊方法のランキングは、次のとおりである。（ほとんどの項目を、対象者が自分たちで書き出した。）

順位	G3（高2）選択項目	G4（高1）選択項目
1番	口だけのセックス	口だけのセックス（フェラ）
2番	コンドーム・ピル	コンドーム
3番	ペッサリー	膣外射精（外だし）
4番	膣外射精（外だし）	安全日
5番	安全日	ピル
6番	射精後すぐ洗浄	射精後のシャワーによる膣内洗浄
7番	——	生理中のセックス
8番	——	射精後膣内をティッシュで拭く
9番	——	空気や液体状のものを膣内に挿入

膣外射精はかなり有効な方法として捉えられており、実際に使われている。射精後の膣内のシャワー洗浄やティッシュによるふき取り、膣内への空気や他の液体の挿入なども、各方法使用の背景には彼らなりの理屈を有する。また、安全日に対する信頼も低くなく、コンドームがないときは安全日であることを確認して、膣性交にいたることも示唆された。

高1G：（膣内に）液体状のものをいれる。

高1 複数： ティッシュ、ティッシュ。
 高1G： でもティッシュじゃ（精子を）吸い取れんじゃろ、全部。
 高2S： どうしても（コンドーム）なかったらしょうがない。
 司会1： そのときはそれでいいと。
 高2S： うん。でもちゃんと確認する。「安全日？」って。そういうのを確かめたうえでなかったらしょうがない。
 司会1： 安全日でないときだったら？
 高2S： やらん。

◆ STD 予防方法：コンドームが1番…

G3の対象者が選んだ有効なSTD予防方法は、1番がコンドームで2番目がペッサリだった。また、G4のメンバーは、コンドームが唯一のSTD予防方法であることをある程度認知していたが、避妊に有効な方法との混同が観察された。さらに、G4では介入時に配ったパンフレットにあった「性病は口からもうつるし、性器から口にもうつる」という項目を本FGI中に確認する機会があったため、コンドームなしのオーラル・セックスは予防にならないのではないかと、という指摘がピアからあった。

高1 複数： ゴムが1番。
 高1K： 全部それ（残り）は予防になってないんじゃないの？
 高1G： あとは予防じゃないじゃろ。
 高1P： ピル、ピル。
 高1K： ピルは飲んでも予防にならんじゃろ。（あ、そっか）
 高1W： あとは口（フェラチオ）くらいかな。
 高1P： でも、口もうつるじゃん？

E. コンドーム使用とコミュニケーションの関連性

対象者のコンドーム使用・不使用という判断と、セックスの相手もしくは家族とのコミュニケーションとは、どのように関係しているのかに注目する。

◆ 話せばつける

セックスの相手とのコミュニケーションの有無もしくは度合いは、コンドーム使用の確率と相関関係にあるように思われる。相手が「コンドームを使ってほしい」「今日はコンドームを持っているか」「子供ができたらヤバイ」と伝えてきたり、セックス前後に両者の間で妊娠の話をしたりすると、コンドーム入手・使用の可能性は増すようである。また、コンドームの入手の項でも見たとおり、薬局の店員とコミュニケーションを通じて信頼を築き、コンドームの入手がしやすくなったケースや、兄弟姉妹と性に関するコミュニケーションの中でコンドームの授受が行なわれているケースなどから、コンドームの効用やコンドーム以外の避妊法・STD予防に対する認識の変化が起きる可能性が示唆される。

司会2： 相手の子はなんていう？ つけてとかいわん
 高2T： 言う。
 司会1： 直前に？
 高2T： 最初。

司会2： 使ってねって言われたら使う？

高2T： うん。

司会2： 使ってねって言われなかったら。

高2T： わからん。

高1W： その子が、どうしても付けないとやらしてくれんと言うなら買いに行く。

高3I： 最初のころは付けてなかった。最近になりだして彼女のほうから、こわいって言い出して。…それ聞いて自分も、今妊娠したら責任とれんし、まだ高校生じゃけとということで最近は付けてますけど。最初のころはほんとにあまり付けてなかったですね。

まとめと考察

本研究では、男子高校生のコンドーム使用・不使用にまつわる要因を、①コンドームの入手、②コンドーム使用の目的、③コンドーム使用・不使用の違いに対する認識、④避妊法・STD 予防方法に対する認識、⑤コンドーム使用とコミュニケーションの関連性の5点に注目して見てきた。FGI分析の結果、対象者の現状についての説明力に力点をおいたカテゴリーを、各点につき1つ以上3つ以下提示した(網掛け部分)。以下、それらカテゴリーに加えて、今後の予防介入のための改善点もしくは新情報の観点から、さらに考察すべき議論を最後に挙げておく。

①. コンドームの入手は「買うならコンビニ・薬局・自販機 / もらうなら友達・彼女・家族」であり、好まれるのは「安い・薄い・臭わない・素早いコンドーム」である。

購入ルートに関して、対人接触が必要ない自販機があまり好まれていない理由を、今後のFGIで探っていく必要がある。ある対象者の言及にもあったとおり、実際に古い自販機が多いのか、それとも自販機のデザイン上か何かの問題で「ぼろい」イメージがあり、それによって売られているコンドームの品質のイメージも下がっているのか、または自販機の数少なく近くなかったり、あったとしても人目をはばかって買いにくかったりするのか、等が確認点となろう。

一部の対象者間に見られた「相手によってはコンドームの質が心配」であるという懸念について、具体的にどのような相手であれば「心配」なのか、そしてその相手と当事者との関係はどのようなものなのかについて探る必要がある。この点がより明らかになれば、今後の予防介入においてピアに協働を要請するような場合、どのようなピアに要請したらよいかの一つの判断基準を得ることができるかもしれない。

好まれるコンドームの一特徴をもつワンタッチ・コンドームは、その存在が対象者群に十分に知られていなかったり、その使い方が正しく理解されていなかったりしたことも判明し、今後の介入の課題が見つかったといえる。また、コンドームの薄さとゴム臭さについては、これらが本当に対象者の実体験や実感に基づいた主張なのか、それともコンドーム商品の宣伝コピーもしくは性メディアやピアの間に流布している情報を内面化してしまっているのか、などといった可能性について検討していく必要がある。

②. コンドーム使用の実際的もしくは可能性のある目的は「避妊・中出し・早漏対策」であり、「性病予防は目的外」であることが示唆された。

コンドーム使用の目的で「気持ちよく中出しするため」というのは、望まない妊娠やSTD

感染を「防がなくてはならない」といった義務的トーンのある目的とは一線を画している。この前者のメッセージは、伝えようによっては対象者間にコンドーム使用についてポジティブな動機づけを生み出しうる。ただし、「気持ちよく中出しするため」にコンドームを使うということのみを強調すると、その裏返しとも言える「気持ちよく外出しするため」にはとりわけコンドームを使う必要はない、というメッセージも伝えてしまいかねない。よって、今回の介入時でも幾度となく強調された「外出しは避妊・STD 感染予防にならない」というメッセージも、ワンセットにして伝えてゆくべきであろう。

ほぼ全員の対象者にとって、コンドーム使用が STD 予防のコンテキストでまったくといってよいほど捉えられていない事実は、今後の STD/HIV 感染流行の見通しからすれば憂慮すべき事態といえる。この状況を生み出していると思われる要因の一つに、対象者間に見られる「自分は STD/HIV に感染し得ない」という根拠が明確でない自信がある。この自信を生み出す一要因として、一部の対象者の発言にもみられたとおり、彼らの間に STD が無症候性である可能性が想定されていないことが推測される。今後の予防介入においては、この誤った想定を覆し、対象者間にある根拠が明確でない自信を崩してゆくことが、ひとつの重要なポイントとなる。

③. コンドーム使用・不使用の違いに対する認識は、「断然ナマ」派と「ナマでもつけても変わらない」派とに分かれている。

この2群間にそれほど確固とした差があるのかは、今後より一層の検討を要する。というのも、「断然ナマ」派と目される対象者の発言や反応を細かく吟味してみると、コンドームが「あってもなくてもいいけど、ない方がいい」や「つけない方が気持ちいいと思うけどよくわからん」（ともに高2）といったものが見られ、さらに「ナマの方がいい」と発言する際も、往々にしてピアに「いいよね」と確認するような形をとることが少なくなかった。コンドームの「ゴム臭い」というのと同じく、「ナマの方がいい」というのがメディアやグループ規範に影響されている可能性などを探ってゆく必要がある。

ただ、予防介入の観点からすれば、「ナマでもつけても変わらない」という発言がピアの口からなされている、ということがより重要であろう。とくに「断然ナマ」というのがグループ規範によって強く規定されている場合、その対抗的なメッセージとして、ピアから「ナマでもつけても変わらない」という主張がされていることを今後の予防介入で対象者に伝えてゆくことは、セイファー・セックス推進の一端となるであろう。

④. 避妊法・STD 予防方法に対する認識を見てみると、有効な避妊法として「ゴムなしから外出し・安全日」が挙げられ、効果的な STD 予防方法としては「コンドームが1番…」と認識されている。

この項目において、今後セクシャル・ヘルスの観点からもっとも打破されるべきであろう対象者の認識は、「外出し・安全日」の避妊法としての信憑性の高さである。結果でとりあげたゲームを実施しなかった G1・G2 については、G1 の若干名が「安全日は信用ならない」という懸念を明確に提示した（特に1名が繰り返し表明）。そして、G2 の1名はピルを使うならばコンドームは使わないと主張した。

ピルについては、G4 の1名が「コーラック」と発言したが、それがウケ狙いなのか（ピアは笑って反応）、実際に便秘薬と混同しているのかは定かではない。しかし、このグループのピルについての理解はあまり深くないことが FGI の議論の中でも見られることから、ピルに関する具体的な情報の提供も、避妊法のコンテキストにおいては重要であろう。

結果にあるように、効果的な STD 予防方法が基本的にコンドーム使用のみであることを知識として認識しながらも、実際の性行動や意図はそれに準じていない。(だからこそ、カテゴリーで「…」をつけたわけである。)この点については、前述の自分は STD に感染しないという「根拠のない自信」の議論と密接に関係していると思われるので、今後の調査・考察の対象となろう。

⑤. コンドーム使用とコミュニケーションの関連性については、推測として基本的に「**話せばつける**」ことになる可能性が増す傾向が示唆された。

コンドーム使用とコミュニケーションの関連性について、今後よりそのポジティブな相関性もしくは因果性確認の努力をしつつ、同時に今後の予防介入では、コンドーム使用の推進を、相手(できれば家族や友人も含めて)とのコミュニケーション推進とワンセットにして展開してゆく方向性が示唆される。従来の欧米における STD/HIV 予防教育においても使われてきた女性側のコンドーム・ネゴシエーション・スキルの向上も、女子高生に対する予防教育のコンテキストにおいて、今後さらに活用してゆくべきなのかもしれない。いずれにしても、本 FGI において「話せば(コンドームを)つける」という可能性が増しうると示唆されたことは、HIV/STD 予防において一つの明るい兆しといえるであろう。

最後に、上記以外の留意点について記述すると、STD/HIV 予防教育においてしばしば強調される「はじめからコンドームを使う」という際の「はじめから」の内容が、あまり具体的に伝わっていないケースが観察された。この点についても、今後の予防介入時の改善点といえる。また、対象者のコンドーム入手について、「どのくらい頻繁に買いに行っているのか・もらっているのか」、「もっとも最近買った・もらったのはいつか」といった質問をすることで、彼らの日常的なコンドーム入手頻度を実感的に把握することが可能になるであろうことが確認された。以上の改善点や新情報に、結果 1-B.「次回の授業で教えてほしいこと」にあるような対象者自身が知りたいといった情報を加えることで、今後の HIV/STD 予防教育は、さらに対象者の実際的なニーズにこたえられるものに近づくであろう。

<参考文献>

- 安梅勅江『ヒューマンサービスにおけるグループインタビュー法』(2001年, 医歯薬出版).
- 千年よしみ・阿部彩「フォーカス・グループ・ディスカッションの手法と課題: ケース・スタディを通じて」『人口問題研究』56(3) (2000年).
- 藤内修二「地域把握のためのフォーカス・グループ・インタビューの利用」『保健の科学』43(3) (2001年).
- Janesick, V.J. The Choreography of Qualitative Research Design, In: Denzin, N.K. & Lincoln, Y.S. *Handbook of Qualitative Research*, 2nd ed. (2000, Sage).
- Morgan, D.L. *Focus Groups as Qualitative Research*, 2nd ed. (1997, Sage).
- Patton, M.Q. *Qualitative Evaluation and Research Methods*, 2nd ed. (1990, Sage).
- ポーブ, キャサリン・メイズ, ニコラス (大滝純司監訳)『質的研究実践ガイド——保健・医療サービス向上のために』(2001年, 医学書院).
- 佐藤郁也『フィールドワーク——書を持って街へ出よう』(1992年, 新曜社).

高橋都「保健医療における質的研究：半構造化インタビューを用いた研究の実際」『日本保健医療行動科学会年報』15（2000年）.

當山紀子・渡邊雅行・中村安秀「フォーカス・グループ・ディスカッションによるニーズ把握の技法」『保健婦雑誌』57(8)（2001年）.

◇ ◇ エッチに関する座談会 ◇ ◇

このアンケートは絶対に学校の先生等の目にふれることはありません。また、答えたくない問には答えなくてよいです。安心してバシバシ本音を書いてください。

事前アンケート用紙

()年生 ()科

呼び名・あだ名	
年齢	才

住んでいる町の名前	
一緒に住んでいる人	

Q1 いま、つきあっている彼女はいる？

1 いる →いる暦 ()	
→何人目の彼女？ ()人目	
2 いない →いない暦 ()	
→いままで何人とつきあった？()人	

Q2 いままでエッチした人数は？

彼女を入れて ()人	
彼女を抜かして ()人	

Q3 エッチしてみたい①・彼女にしたい②のはどんなタイプ？ ①と②は別？ 同じ？

①	
②	

Q4 エッチ以上に興味があり、やりたいことはある？ あるならそれは何？

--

Q5 所属しているクラブや同好会は？

()部・同好会	
所属してない	

Q6 卒業後の予定進路は？

進学：大学 短大 専門学校 (県内・県外)	
就職：呉地区 県内 県外	
(職種：)	

Q7 学校は楽しい？ 楽しくない？

楽しい	
理由：	
楽しくない	
理由：	

Q8 エッチ情報として見る雑誌・マンガ・番組はどんなもの？ なにを知る・学ぶ？

雑誌 ()	
マンガ ()	
テレビ番組 ()	
知る・学ぶもの：	

◇ ◇ 座談会(グループ・インタビュー)の感想 ◇ ◇

どうも長いあいだお疲れさまでした。さいごに、こんかいの座談会の感想を聞かせてください。今後の参考にさせていただきます。名前などを書く必要はないので、またまた安心して本音の感想や評価をください。よろしくをお願いします。

事後アンケート用紙

Q1 このグループ・インタビューは楽しかったですか？

楽しかった 楽しくなかった

- どんなどころが？

Q2 話しやすかったですか？

話しやすかった 話しにくかった

- どうして？

Q3 1対1のインタビューの方が話しやすいことはありますか？

ある ない

- どんなこと(内容)？

Q4 きょうの話で何か発見したことがありますか？

あった なかった

- あった人は、どんなこと？

Q5 司会の進行はどうでしたか？

ちょうどよかった じゃまだった

- 「こうしてほしい」という点は？

Q6 部屋に女性がいるのが気になりましたか？

なった ならなかった

Q7 部屋はちょうどよかったですか？

ちょうどいい 他の場所がいい

- 希望する「他の場所」は？

Q8 きょうの話でイヤな思いをしましたか？

した しなかった

- 「した」人、その中身は？

Q9 さいごに、コメントがあればなんでも、気軽に書いてください。

お疲れさまでした！ ご協力、ほんとにほんとにありがとうございました！！ 心から感謝です！

- 1 FGI についての簡潔な説明は、厚生科学研究費補助金エイズ対策研究事業『HIV 感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究』平成 12 年度報告書、231 ページ参照。
- 2 但し、背景が似通った対象者を集めるか集めないかは、研究目的による。あるテーマに対する様々な視点を 1 グループで見たいのであるならば、例えばわざと学歴の違う対象者を集めるということもありうる。ポープ、キャサリン・メイズ、ニコラス（大滝純司監訳）『質的研究実践ガイド』（2001 年、医学書院）29 ページ。
- 3 トライアングレーションの簡潔な説明については、佐藤郁也『フィールドワーク』（1992 年、新曜社）115-120 ページ参照。4 種類のトライアングレーション及びそのポストモダニズム的修正版ともいえる *crystallization* については、Janesick, V.J. *The Choreography of Qualitative Research Design*, In. Denzin, N.K. & Lincoln, Y.S. *Handbook of Qualitative Research*, 2nd ed. (2000, Sage), p.379-399 参照。
- 4 Morgan, D.L. *Focus Groups as Qualitative Research*, 2nd ed. (1997, Sage), p.63-64.
- 5 Patton, M.Q. *Qualitative Evaluation and Research Methods*, 2nd ed. (1990, Sage), p.336.
- 6 安梅勲江『ヒューマンサービスにおけるグループインタビュー法』（2001 年、医歯薬出版）31-32 ページ。
- 7 前掲出『質的研究実践ガイド』29 ページ。
- 8 當山紀子・渡邊雅行・中村安秀「フォーカス・グループ・ディスカッションによるニーズ把握の技法」『保健婦雑誌』57(8) (2001 年) 606 ページ。
- 9 前掲出『質的研究実践ガイド』30 ページ。
- 10 藤内修二「地域把握のためのフォーカス・グループ・インタビューの利用」『保健の科学』43(3) (2001 年) 206 ページ。
- 11 千年よしみ・阿部彩「フォーカス・グループ・ディスカッションの手法と課題：ケース・スタディを通じて」『人口問題研究』56(3) (2000 年) 66-67 ページ。
- 12 高橋都「保健医療における質的研究：半構造化インタビューを用いた研究の実際」『日本保健医療行動科学会年報』15 (2000 年) 110 ページ。
- 13 前掲出『ヒューマンサービスにおけるグループインタビュー法』16 ページ。
- 14 前掲出『ヒューマンサービスにおけるグループインタビュー法』20 ページ。
- 15 前掲出『質的研究実践ガイド』30 ページ。
- 16 前掲出『ヒューマンサービスにおけるグループインタビュー法』41-44 ページ。
- 17 コード化・カテゴリー化や、分析のプロセスに着いては、前掲出「フォーカス・グループ・ディスカッションによるニーズ把握の技法」606-608 ページや、前掲出 *Focus Groups as Qualitative Research*, p.58-65 などを参照。

研究 ⑧ 性行動に関する質問紙調査の信頼性の検討

吉嶺 敏子 (京都大学大学院医学研究科国際保健学)

木原 雅子 (広島大学医学部公衆衛生学)

市川 誠一 (神奈川県立衛生短期大学衛生技術科)

大屋 日登美 (神奈川県立衛生短期大学衛生技術科)

木原 正博 (京都大学大学院医学研究科国際保健学講座)

研究要旨

性教育と性行動の関連を研究するために用いる質問票の性行動項目の信頼性検討を目的として、A 短期大学 55 名と B 看護学校 121 名の女子学生を対象に調査を行った。本報告では、プライバシーの観点から特に回答の信頼性が問題と思われる性行動を中心とした解析結果を報告する。調査に際し、主質問 32、付問 20、①エイズ/性感染症関連知識、②属性、③高校時代の親子関係、④高校生活、⑤性行動、⑥コンドームに対する意識、⑦セルフエスティーム、⑧性教育の 8 セクションから構成された自記式質問票を作成した。調査は、平成 13 年 11 月から 12 月に実施し、この期間内に同一個人に対し 1 週間の期間において 2 回、集合調査を実施した。倫理的な配慮として、質問票の表紙に、匿名性の保持、個人の性行動を明らかにするものではないことを明記し、調査開始前には、回答は自由意志とし、調査拒否により不利益を被らないこと、調査目的、性行動というプライベートな調査を 2 度実施する必要性等を説明した。A 短期大学の共通回答者は 51 名 (92.7%)、B 看護学校の共通回答者は 104 名 (86.0%) であった。性経験ありの者は、A 短期大学で約 40%、B 看護学校で約 80% であった。A、B 両校の性行動項目の信頼性係数 κ は、性経験の有無 0.97、初交年齢 0.93、過去 6 ヶ月間のコンドーム使用状況 0.88 であった。エイズ/性感染症関連知識の相関係数 0.83 であった。本調査結果を解釈するにあたり、集合調査であったこと、医療系の学校で、調査への理解が高かったこと、再テストまでの期間が 1 週間と短かったことなどが関与している可能性を考慮する必要がある。本調査結果を他の集団にそのまま適用できるとは限らないが、海外における先行研究とほぼ同レベルの信頼性係数を示しており、わが国の若者においても信頼性の高い性行動調査が行い得る可能性を最初に示した点で意義がある結果と考える。再テストまでの期間は、性行動が大きく変化するほどの長期間としないことや実施時期の問題から 1 週間としたが、前回の回答の記憶が残っている可能性も否定できないこと、先行研究には様々な期間があることから、調査期間を 2 週間とし検討を行った。その結果、1 週間の場合とほぼ変わらない信頼性係数の値であった。

1. はじめに

日本性教育協会による青少年の性行動調査では、ここ 20 年の大きな変化として、初交年齢の早期化、高校生、大学生における性交経験率が年々上昇していることが示され、平成 11 年度に行われた厚生省 (現、厚生労働省) HIV 疫学研究班の「国立大学生 Sexual Health Study」の調査結果によると、その場限りの相手とのコンドーム使用率が、決まった相手の場合より約 10% 低いこと、相手の数が多い人ほどコンドーム使用率がより低いことが示され、性行動の活発な集団ほど無防備な性行動をとっていることが示唆されている。こうした中、HIV 感染者の年間の報告件数は一

貫して増加傾向が続き、日本の若い男女を中心にクラミジアや淋菌感染の罹患率が上昇し、10 代の人工妊娠中絶率も増えている。

以上のことから、若者に対してエイズ、性感染症に対する予防教育を行う必要性は高く、若者の性別や年齢、心身の発達段階や性経験、若者のニーズに合わせた効果的な教育を行うことが重要である。

性教育が性行動に及ぼす影響を評価するには、質問票による性行動の測定が不可欠である。そして、そのためには、性行動について、信頼性、妥当性の高い質問票を開発することが求められる。日本では、食習慣や運動習慣などの生活習慣に関する質問票の信頼性 (再現性)、妥

当性の検討については比較的行われてきた。しかし、我が国には、性行動に関する質問票の信頼性を検討したデータは存在しない。そこで今回、厚生労働省「HIV感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究班」の若者の予防介入に関する研究グループで、性教育が性行動に与える影響を評価する研究を開始するに際し、質問票の信頼性を検討することとした。質問票は性教育に関する項目も含めて開発したが、本報告では、質問の内容から特に回答の確からしさが問題となる性行動を中心に解析した結果を報告する。

2. 目的

性教育と性行動の関連に関する研究に用いる質問票の性行動項目の信頼性を検討することを目的とする。

3. 対象と方法

調査対象者

関東の医療系短期大学（以下 A 校）と看護学校（以下 B 校）で調査を実施した。調査対象人数は、A 校の 1 年生 27 名、2 年生 28 名、計 55 名、B 校 2 年生 58 名、3 年生 63 名、計 121 名で全員女子学生であった。

調査時期

平成 13 年 11 月 8 日に A 校の 2 年生、11 月 15 日に 1 年生の 1 回目の調査を実施した。2 回目は 1 回目終了から 1 週間後に実施した。平成 13 年 12 月 10 日に B 校 2 年生、12 月 11 日に 3 年生の 1 回目を実施した。2 回目は 1 回目終了から 1 週間後に実施した。

質問票と調査項目

性行動の質問については、木原らが日本の大学生の性行動の実態を調査するために開発した質問票（以下 MKBQ-univ.1 とする）を基に項目を作成した。中学・高校の性教育の内容や方法等に関する質問項目は、文部科学省の学習指導要領と日本学校保健会の HIV 教育参考資料、中学、高校で実際に指導を行っている保健体育の先生の資料、性教育協会の調査で使用された質問項目、海外で使用された質問票の項目等を参考にし、作成した。

質問票は自記式で 12 ページ、回答時間約 15 分、主質問 32、付問 20 である。質問票の構成

は、①エイズ、性感染症に関する知識、②属性、③高校時代の親子関係、④高校生活、⑤性行動、⑥コンドームに対する意識、⑦セルフエスティーム、⑧性教育の 8 セクションとした。

始めに、エイズと性感染症に関する知識を尋ねた。ここは MKBQ-univ.1 の項目に、クラミジアに関する項目を新たに追加したものとした。家族関係は、高校時代の両親との会話の有無と頻度、両親との性に関する会話の頻度について尋ねた。これは、吉宮らの親子会話の質問紙や Carolyn らの質問票を参考に作成した。高校時代の親のしつけに関する項目は、MKBQ-univ.1 を参考にし、生活態度、異性との交際に対する厳しさについて質問した。性行動については、主に MKBQ-univ.1 を参考にし、セックス経験の有無を問い、セックス経験のある者には、初交年齢、現在までにセックスをした人数、同時期に複数の相手と性関係にあった経験の有無、大学入学から現在までのセックスの相手の人数を尋ねた。コンドームの使用状況は、初交時、過去 6 ヶ月間、一番最近のセックスでの使用について尋ね、一番最近のセックスでのコンドーム使用については、使用目的や使用しなかった理由について尋ねた。また、妊娠経験の有無、性感染症と診断された経験の有無、性感染症の病名・診断された年齢、回数について尋ねた。セックスの相手とコンドームの使用について自分からどの程度自信をもって話が出来たかについても質問を行った。また、ローゼンバーグによる既存の尺度を山本らが邦訳し信頼性、妥当性が高いと考えられている自尊感情尺度を質問票に加え、調査時点でのセルフエスティーム（自尊感情）について尋ねた。性教育については、まず、男女がセックスすることをいつ知ったか、それは何（誰）から知ったかを尋ねた。そして、中学、高校での性教育の有無、教育の内容、指導方法、指導者について質問した。

この質問票では、とび先を矢印や記号で指示するなど、分かりやすいレイアウトを工夫し、判りにくい漢字にはふりがなをつけるなどの配慮を行った。